

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ①地域代表7名
公民館館長
地区自治会連合会会長
地区社会福祉協議会事務局長
地区主任児童委員
学識経験者2名
同窓会会長
- ②保護者代表2名：PTA会長・副会長
- ③教職員3名：校長・教頭・教務主任

※地域コーディネーター(4名)
サポート至民メンバー

(2) 協議会の内容

- 第1回(小中合同協議会)
期日 令和元年 6月12日(水)
内容 各校のスクールプランと現状
中学校区教育の取組
- 第2回
期日 令和元年11月15日(金)
内容 一学期の振り返り
職場体験の取組
- 第3回
期日 令和2年 2月14日(金)
内容 一年を振り返って
学校評価の結果
次年度の教育活動方針

(3) 協議会における成果と課題

- ①成果… 地域コーディネーターを含むサポート至民のメンバーと毎週会合をもち、地域からの要望などの情報を素早く得ることができた。
- ②課題… 協議会で話題になった種池交差点の信号が歩車分離式になったが、付近の通学路も危険なため、歩道の整備や自歩可などを協力して関係機関に要請していく。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

サポート至民の支援のもと、生徒会地域交流委員会が中心となって地域と連携・交流し、より多くの生徒が地域活動に参画することによって、社会力の向上を目指すとともに、地域の将来を担う生徒を育てる。

(2) 活動の実際：田んぼアートin 至民 全学年(5月～9月)

学校近くの田んぼを借り、古代米と黒米で「令和」の文字をデザインし、南江守生産組合とJA福井市中央支店の協力を得ながら、田植えや稲刈りの体験をするとともに地域の産業をアピールした。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーターには、生産組合との連絡調整や田植え・稲刈り体験の指導、稲の成長をとおして命の大切さを学ぶ掲示物の作成をしていただいた。

(4) 特に工夫した事項

稲の成長を7日から10日に一度ドローンで撮影し、タイムラインとして校内に掲示して生徒の関心を高めた。

(5) 成果と課題

毎年行っている活動ではあるが、掲示物を工夫したこともあり、今年度の稲刈りは例年の1.5倍の人数の生徒が参加した。掲示物の作成に生徒も関わるようにしたり、掲示物を授業などにも活かしたりしていきたい。



稲刈りの様子



命に学ぶ



タイムライン

(様式 3)